



わたしの聖戦

女性が働くということ

137

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

政府の「婚活サミット」を哂う

自民党の「婚活・街コン推進議員連盟」が、国会内で開いた推進サミットにおいて、若者の出会いを支援し結婚率を高めるために、いくつかの項目で数値目標を設けたというニュースが流れた。

数値目標とは、「未婚率を2分の1以下」「婚姻件数を2倍以上」「離婚件数を2分の1以下」「出生率を2・0」の4項目で、加えて「結婚の質を高める」というわけのわからないものを含め、計5つが掲げられている。なんだ、これ、というのが正直な感想。調べてみると、シンガポール政府の少子化対策を手本にしたものらしく、結局は

婚活会社に投資をしたり、出会い系イベントを行う自治体に補助金を供与したり、そのためのファンドを創る、というだけのこと。

少子化問題が表面化して久しく、今回の目標設定も「良きこと」として誰も苦言を呈していない。しかし、これでは単なるバラマキにしかすぎない。新しいファンドと聞けば、それを狙う婚活事業者が増えるだろうし、ほとんど効果のない自治体主催のお寒い出会い系イベントが目につくのがせいぜいのところだろう。はつきり言って、どんな努力をしても、未婚率が上昇したり出生率が2・0

0になることはまずない。いずれもある程度近代化された国には共通の現象であり、人口爆発を憂えた時代は過ぎ、今や世界の半数の国が少子高齢社会に悩んでいる。人口が増えているのはアフリカの一部の国と中東くらい



て証明されている。いったい、政治家はその種の調査研究を勉強しているのか？ここにいたって、明らかに絵空事である目標を軽々しく提案することを恥ずかしいと思わないのか？まったくもって理解ができない。

である。人口問題の専門家が説いているように、日本の若者が結婚しないのは、ズバリ経済的問題にその理由がある。雇用の不安定さや年収の低さが結婚のハードルを高くしているのは様々な調査によっ

時間じこころに、ネットを介して知り合ったベビーシッターに預けた幼児が死亡したというニュースが流れた。現時点での詳細は不明だが、亡くなった幼児にはいくつかアザがあったというから、おそらく虐待によるものかもしれない。驚いたのは、ネット上で行われる登録者（親）とシッター（保育者）とのやり取りは、行政の目が届いておらず、何の規制もないということだ。さらに、この事件のベビーシッター紹介サイトには6年で1万人が登録した事実もわかった。会ったこともない人に子ども

を預ける母親に対し批判の声がある一方で、ちょっと預けたいときの利便性を訴える声もある。効果が期待できないお気楽な政策を披露している暇とお金があったら、今現在子を抱えているリアルな人々にとって朗報となる手だてを示してはくれないだろうか。少子化を解決するのではなく、少子社会に備えるべき社会保障・福祉の構築を具体的に唱えることはできないのだろうか。

「婚活・街コン推進議員連盟」のニュースにあきれたのは、その非現実性ばかりではない。「結婚の質を高める」などとうそぶき、個の価値観のレベルに何の迷いもなく介入する政府の存在に寒気を覚えた。これはとても危険なことだ。年齢問わず、余計なお世話だと一刀両断するくらいの気概を国民は持つべきだと思う。

イラスト・伊藤栄章